

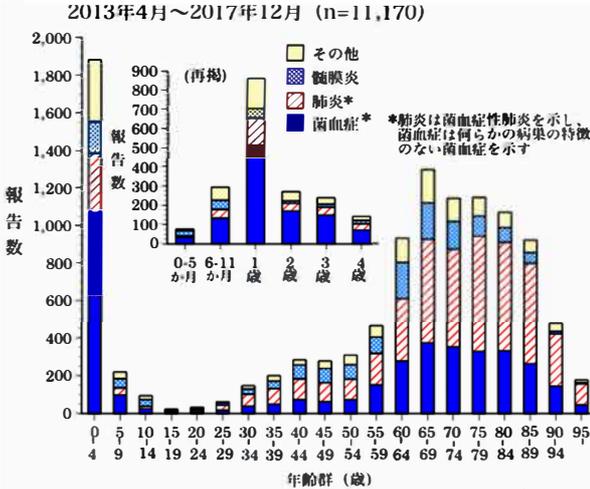
2019 保健大学

おとなのワクチン 「肺炎球菌ワクチン」



講師：宮田智仁副院長

皆さんこんにちは。今年度は保健大学で「おとなのワクチン」をテーマに講義をしてきました。参加していただかなかった皆様にも講義内容を連載させていただきます。第1回目として「肺炎球菌ワクチン」についてお話します。



(図1) (感染症発生動向調査：2018年6月1日現在報告数)

肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症は、肺炎連鎖球菌という細菌が引き起こす肺炎や髄膜炎などの感染症です。

肺炎連鎖球菌は93種類の種類があります。この肺炎連鎖球菌による感染は5歳以下の小児と65歳以上の高齢者に多く発症します(図1)。

小児の場合には髄膜炎

を予防するために生後2ヶ月からプレベナーというワクチンが、成人の場合には肺炎を予防するために65歳以上の方にニューモバックスというワクチンが定期接種(注1)となっています。

行政のお知らせが最後のチャンス

政府の助成制度では、お知らせが来た方は、生涯で一度の定期接種のチャンスで、それを逃すと自費での接種となります。

このワクチンですが、個人差があり効果は概ね5年程度と推測されています。前回接種から5年以上経過していたら再接種の時期です。再接種については誰もお知らせしてくれないので、自分で気が付く必要があります。

再接種ですが、小児に使っているプレベナーを接種しその後期間を

開けニューモバックスを接種した方が、効果が高いとのデータもあり、2回目以降の接種についてはご相談下さい。

85歳以上はご相談を

また少し残念なデータですが、85歳以上の方にワクチン効果が証明されていないません。個人差もあるため効果がでる方はおられるとは思いますが、安く接種できる定期接種は85歳以上の方にも接種をお勧めします。

一方で自費での接種については、85歳以上の方へはあまりお勧めできません。

今回は「破傷風ワクチン」についてお話をしたいと思っています。



(注1) 【定期接種】国が定めた接種すべきワクチンの事で、国が費用を負担します。国が全額負担するA類と一部負担するB類があり、大人の肺炎球菌ワクチンはB類のため、自己負担が生じます。自己負担額は自費で打つ値段の3割程度で設定されています。